

11月は児童虐待防止推進月間



未来を担う子どもたちのために…



毎年、11月は児童虐待防止推進月間となっています。児童虐待から子どもたちを守るためには早期発見・早期対応が大切です。皆さんからの相談や通告(連絡すること)が問題解決の一步につながります。

わたしたち大人には、子どもたちを守り、未来を託していく義務があります。子どもたちを守るため、児童虐待のこと、子育てのことをもう一度考えてみませんか。

◆この子どうしたのかな? と
思ったら…

虐待を受けたと思われる児童を発見したときは、すぐに、市や児童相談所に通告しなければなりません。これは、児童虐待防止法および児童福祉法に定められた、わたしたち一人一人の義務です。

通告は、虐待している人を処罰することではなく、その家庭に支援の手を差し伸べ、子どもや家庭を救うことです。虐待だと確信できなくても、おかしいと気付いたら、市や児童相談所に必ず通告してください。なお、通告した方が特定されることはありません。

◆子育てに不安を感じたら…

「自分だけが子育てをつまぐでいていない」「助けてくれる人がいな

い」と感じたり、「この子がいなければ」などと思ってしまうことはありませんか? 子育ての不安は決して特別なことではありません。同じように悩んでいる人はたくさんいます。一人で悩まずに「子どもと親の相談室」まで相談してみてください。お子さんのことや子育てのこと、ご自身のことについて、一緒に考えていきましょう。

◆相談窓口

市の家庭相談員やNPO法人だじょうぶの相談員が子育てや児童虐待に関する相談に応じます。相談者の秘密は守られますのでお気軽にご相談ください。

子育て・児童虐待など各種相談
この記事に関して詳しくは
日光市家庭児童相談室子ども
と親の相談室

※今市中学校向かい、生きがい
センター敷地内

◎窓口相談：月曜日～金曜日
(祝日、年末年始を除く)

午前8時30分～午後5時15分
◎電話相談：毎日24時間対応

☎(21) 2119
☎(30) 7830

～子どもを虐待から守るための5か条～

- ①通告は義務です。「おかしい」と感じたら迷わず連絡しましょう。
- ②「しつけのつもり…」は言い訳ではありませんか? 子どもの立場で考えましょう。
- ③一人で抱え込まないで、悩みは相談してみましょう。
- ④親の立場より、子どもの命が最優先です。
- ⑤虐待は特別ではありません。あなたの周りでも起こりうることです。

配偶者や恋人からの 暴力をなくしましょう!

11月12日から11月25日までは、「女性に対する暴力をなくす運動」週間です。また、11月25日は「女性に対する暴力撤廃国際日」です。配偶者や恋人からの暴力など、あらゆる暴力をなくしましょう。

くわしくは 人権・男女共同参画課
男女共同参画推進係 ☎21-5148



♥人と人とのよりよい関係をつくるために

配偶者や恋人など親密な関係にある人から受ける暴力をドメスティック・バイオレンス(以下、DV)といいます。配偶者からのDV、性犯罪、売買春、人身取引、セクシユアル・ハラスメント、ストーカー行為などの暴力は、性別を問わず決して許されない人権侵害であり、男女共同参画社会を形成していくうえで克服すべき重要な課題です。

♥デートDV

近年耳にすることの多い「デートDV」は、同居していない恋人間のDVのことであり、中高生を含めた若いカップル間での驚くべき暴力の実態が明らかになってきました。

暴力の内容も夫婦間のDVとほとんど同じです。殴るけるなどの身体的暴力のほか、「ばか」「クズ」など傷つくことを言う、怒鳴る、物に当たるなどの精神的暴力、携帯電話の通話やメールを手エックしたり、友達との付き合いを制限したりする社会的暴力、借りたお金を返さない、借金させる、バイトをさせたり辞めさせたりする経済的暴力などがあります。

平成20年度に実施した内閣府の調

査によると、10代から20代女性の13・6%、男性の4.3%が身体的、精神的、性的暴力のいずれかを経験しているという結果が出ています。

デートDVの加害者も被害者も、DVと同じで、加害者意識も被害者意識もないことが多く、中には、こういった暴力行為を「愛情」の表われであると思っている人も少なくありません。

♥DVの原因

なぜ、DVやデートDVが起きるのでしょうか。加害者は相手を支配する手段として暴力を使います。相手を怖がらせ、孤立させ、コントロールしようとするのです。暴力だけでなく、暴力行為を反省してみせたり、やさしくしたり、相手に改心することを期待させて離れないようにします。「男性は強くて女性よりも上でなければいけない」「女性は男性に従うもの」といった固定的な



性別役割分担意識が暴力を容認し、被害を深刻化させる一因にもなっています。

また、加害者は家族や恋人との正常なコミュニケーションを知らないことが多いといわれています。自分の所有物のように相手を支配するという間違った考えを持っています。相手を思いやり、互いを大切にしながら対等な関係を築くという正常な家族関係を学ばずに育ってきたのです。そして、それは次の世代に引き継がれていきます。

この連鎖を断ち切るためには、わたしたち大人が、「暴力を認めない」「自分のことも相手のことも大切にすることの本当の意味を若い世代に伝えていかなければなりません」。

※DV・デートDVについては、市ホームページに詳しく掲載していますので、ご覧ください。

DV・デートDVについての相談は…

日光市女性相談ほっとライン
月曜日～金曜日
(祝日、年末年始を除く)

午前8時30分～午後5時15分
☎(30) 4140